

# カトリック六甲教会 教会報

2012

1

No.481



あけましておめでとうございます！

主任司祭 松村 信也

今年は、東日本大震災で被災された方から頂戴した希望の言葉「過去は変えられないけど、未来は変えられます。先の見えない未来だけど、一步、一步、力強く歩いて生きよう」。この言葉を旗印として、互いに声掛け合って私たちの共同体作りに協働しませんか。

昨年は、新しい地区会作りに大勢の皆様のご指摘とご協力を頂戴したこと、また、当初計画よりも少し早い信徒名簿の整理と分類を可能にすることが出来ましたこと、ここに改めて御礼申し上げます。新年からは、この整理された信徒台帳をもとに、信徒の皆様へのきめ細やかなご奉仕と新たな取り組みをしていきます。

さて現在、日本経済だけでなく世界経済までも混沌としている時代において、正直、希望を持つのが難しい社会構造になっています。もう十数年も続くバブル崩壊後の景気の低迷。それによって多くの人は、他人のことまで考える余裕がなくなり、自分中心に物事を考え奔走しています。その結果、勝ち組と負け組が現実となり、荒んだ社会環境を生み出しているのです。

「こんな世の中だから自分のことだけでなく、こんな世だからこそ与えられたこの環境の中で、今を精一杯生きる」。そして、「どんな世であれ自分一人では生きられないから、互いに協力しあって、何か少しでも人の役に立つことを考える」ことが大切ではないでしょうか。これからの社会、一人ひとりが生かされるためには、別に偉い人になる必要はないでしょう。むしろ社会の何処にあっても、その場その場になくはならない人になること。与えられた仕事や奉仕をとおして、世のため人のために貢献することこそ、今の社会を変えていく大きな原動力になるのではないのでしょうか。

1549年フランシスコ・サビエルが日本に上陸し、キリスト教を伝えました。そして、二年余の滞在で数百人もの人に洗礼を授けることが出来ました。この事実を知るとき、サビエル一行が、当時の日本の人々に与えた彼らの“生き様”こそ、当時の人々にとって受洗への大きな動機となったのではないのでしょうか。

主に生かされた共同体作り、確かな“つながり”、その絆の糸の見える共同体作りは、新しい組織にしたから、盛り沢山のイベントをしたから、出来るものではないでしょう。むしろ地道な一人ひとりの協働こそ、岩の上に建つ共同体が出来るのではないのでしょうか。

先の見えない未来だけど、一人ひとりに与えられた仕事、奉仕をとおして、あなたなりに“ありのまま”主に喜ばれる共同体作りに協働しましょう。



## キリスト教の基礎知識シリーズ I 【イエス・その6-B】



使徒たちは、キリストをどのように理解していたのか。また聖書の中でどのように語られているのか。そして、イエスの時代以降の教父たちは、キリストをどのように理解したか。

### 1. パウロのキリスト理解

#### (1) 十字架を強調しながら復活が中心概念。

十字架に掛けられて復活したキリストが唯一の救い主であり、聖霊を与えて私たちと一致してくれる。それによりユダヤ人や異邦人の区別なく、すべての人間は、根本問題である死と罪から解放され、神の愛と永遠の命へと招かれている(ロマ 4:24-25, 8:14-15, I コリ 1:17-25, 8:11, 13:20-25, 45, II コリ 4:14, 5:14-17 など)。私たちとキリストとの関係を示すイメージとして「私たちは兄弟、御子は長子」(ロマ 8:29)、「キリストと共同の相続人」(ロマ 8:17)、「キリストを着る」(ガラ 3:27)、「キリストに結ばれて一つの体」(ロマ 12:5)、「主と一つの霊」(I コリ 6:17)、「キリストが私の内に生きておられる」(ガラ 2:20)、「キリストに結ばれて」(ロマ 6:3-23)、「キリストがあなた方の内に形作られる」(ガラ 4:19)、「キリストと教会—花婿と花嫁」(エフェ 5:21-32)等と表現している。

#### (2) 再臨の強調

再臨の強調がある。まもなく主がこられるので、希望を持ってそれを待つように説いている (I テサ 1:9-10, 4:14-18)。

#### (3) 神は御子を与えた

神ご自身の子であり、神はその方を惜しまず私たちに与えて下さったことを述べている (ロマ 8:29-32, ガラ 4:4, エフェ 1:6, コロ 1:15)。それは必然的に御子の先在理解を伴っている (II コリ 8:9, フィリ 2:6, コロ 1:15-20)。そして最後には御子は、御国を御父へ返すことになる (I コリ 15:22-28, エフェ 1:3-14)。

#### (4) イエスは主 (κύριος・キュリオス)

現在君臨している主という概念である。(I コリ 8:5-6)。私たちにとって、主は唯一人であって、それ以外には何の意味もない (フィリ 3:8)。生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものであって (ロマ 14:8)、私たちの根源的な主体は自己によるものではなく、主によるのである。

#### (5) キリストは第二のアダム

キリストこそ新しい人祖である。第一のアダムの罪による全人類を義とし (ロマ 5:12-21)、第一のアダムによる死から命へと解放した (I コリ 15:21-23)。かくして、キリストは人類の救済史の中心にあり、頂点に位置しているのである。

#### (6) 宇宙的なキリスト論

この世のすべてのものは、キリストによって成り立ち、キリストのために作られたのである (コロ 1:16-17)。そして、すべてのものが、キリストのもとに集められるのである (エフェ 1:9-10, 22, フィリ 3:21)。

### 2. 共観福音書成立の意義

共観福音書成立の狙いは、復活した主キリストは、ナザレのイエスその人であることを述べることである。地上のイエスの中にキリストを見ようとする。ケリュグマ・κερυγμα (使信) の中で忘れかけていたことを思い出させる意図も見られる。

#### (1) マルコ福音：神の子というタイトルが強調されている。そして、これが主題になっており、随所でこのタイトルが記されている。例えば、洗礼のときの天からの父の声、変容のと

き、十字架での死去のときの百人隊長の言葉などである。

- (2) マタイ福音：基本的には、神の子が強調されている。キリストの尊称、普遍的な業などに関心を持っている。メシアにもこだわる。
- (3) ルカ福音：ヘレニズムの人々を対象としている。人間としてのイエスの力を明示し、最高の預言者として描いている。歴史に関心を持ち、過去としての旧約、現在としてのキリスト、未来としての神の国という図式を示す。歴史は神の計画の中で進んでいるとの認識を持っている。

### 3. ヨハネのキリスト理解

それまでの正統的なキリスト論をすべて取り入れている。福音書全体の構成は、アナバシス・ $\alpha\nu-\alpha\beta\alpha\sigma\iota\zeta$ とカタバシス・ $\kappa\alpha\tau\alpha\beta\alpha\sigma\iota\zeta$ （昇っていく&降ってくる）。先在・受肉のキリスト論である。父と子のキリスト論も特徴的である。イエスは父である神の一人子である。父と子の関係において救いを述べている。キリストは父なる神の啓示を使命とする。キリストの救いは、啓示である。キリストは人間を救うために父を啓示する。ヨハネの言う救いとは、命と恵みへの参与である。その他の特徴は、以下のとおりである。

- (1) 旧約との関係。旧約の人物の一切の出来事にある約束を、キリストが成就し、しかもそれを凌駕している（ヨハ 1:15-34,4:12,5:45-47,8:56,12:41,19:34-37）。イエスこそが本当の命の糧であり（6:32-33）、生ける泉であり（7:37-38）、真の神殿である（1:14,2:21）。
- (2) すべての人との関係において、キリストは生きる為に必要なものをすべて与える方である。キリストは真の食べ物、飲み物（6:55）、世の光（8:12）、道・真理・命である（14:6,11:25）。また世の罪を取り除く方で（1:29）、世を生かす方（6:51）、私たちの内にいてくださる（17:26）。
- (3) その根拠として父との深い一致がある。互いに知り、愛し合っている（10:15,14:31,17:26）。共通の事を行い（5:19-20）、イエスを見ることは、父を見ることである（14:9）。子は父に完全に依存し、すべてを受けている（4:34,16:15,17:10）。さらに自分の存在を端的に「ある」と述べる（8:28,58,13:19）。それを基礎にして「ぶどうの木」や「門」などのイメージが付与されているのである。

### 4. ヘブライ書と黙示録

- (1) ヘブライ書：父は御子を遣わした。その御子は、大祭司として救いの業を行い、天において絶えず父に取りなしている。旧約の幕屋の信仰に従ったキリストの業のイメージを持っている。しかもこうした旧約の祭りは、キリストの贖いの業によって廃止されたのである。
- (2) 黙示録：キリストは歴史全体の主であり、歴史に正義をもたらし君臨する。キリストはまた血を流した子羊のイメージで描かれる。

### 5. 古代のキリスト理解

- (1) 使徒 教父：イエスを私の神と読んでいる（アンチオキアのイグナチオ）。そして、その神であるイエスのご受難に与りたいと望んでいる。
- (2) ロゴス思想：これはケルソスのキリスト批判に対する答えとして出されるようになった。父が唯一の神であると同時に、イエスもまた神であることを説明する為に用いられた概念が、ロゴスである。ロゴスは神の知恵や考えを表す言葉であったので、それをキリストに結合させたのである。この思想は二つの危険をはらんでいる。一つは、そのロゴスの地位を低下させて神の被造物の一つにしてしまうものであり（後のアレイオス説）、もう一つは、逆に神による唯一性にこだわって、ロゴスを神のただの機能や様態の一種にしてしまうことである {モナルキア主義（唯一神論）や仮現論（イエスの完全な人間化否定）等}。

(3) 上記に対するオリゲネスの解決：

オリゲネスのおかげで一つの解決がもたらされた。まず父なる神の善良さから出発する。それは完全で良いものであるから、永遠に与え続けるものであって、それがロゴスであるという。それゆえ、ロゴスは善良さの完全な像として、永遠に父から生まれているものなのである。精神から意志が生まれ、また完全な精神と意志は、一体であるように、父ロゴスの関係を説明したのである。

主任司祭 松村 信也

~~~~~

## ～地区会便り～

### 灘南地区について

私達、灘南地区の紹介を致します。

教会の真南一帯で、西は都賀川、東は石屋川で、阪急沿線より南で、海岸線までという広い灘の東よりの地域です。90世帯、134名在籍です。教会には、徒歩で10～20分程で行くことが出来、静かな住宅地、商業地もあり、便利で恵まれている地域です。

とりわけ、正午と午後6時の教会の鐘の音を家の庭で聞くことが出来るのは、一日の感謝の祈りにつながります。

しかしながら、活動できる人達は10人前後なので、高齢化社会の典型的な地域と思われます。故に、今後、親睦を深めていくと同時に、地域のつながりが、より一層重要性を増すことでしょう。

プライバシーの確保と、孤立化を防ぐという矛盾した課題にどうとり組むべきか、話し合いを深め、アンケートをとりつつ、具体化につなげたいと考えております。

(副地区長 山縣)



### 「東灘南地区の集い」開催のお知らせ

“東灘南地区”の“地区集会”を下記の通り開催いたします。

日時:2012年2月5日(日)11:30～13:00

場所:第1,2会議室

集いの内容

1. コリント書神様のお話
2. 参加者全員の自己紹介
3. 地区会に思うこと、望むこと、期待すること等の分かち合い  
茶話会形式でと考えています。

東灘南地区の皆さま、お互いにもっと知り合ひましょう。大勢の方々の参加をお待ちします。

東灘南地区長 川合

<行事報告>

∞∞∞ 七五三の御ミサにあずかって (11月13日) ∞∞∞

次男の三歳の七五三のお祝いをしていただきました。

三歳の息子はまだまだ赤ちゃんで、途中で「なんか飲みたい～」とか「疲れた～」とかぐずぐずしていましたが、七歳になった惣太郎は「恵ちゃん、シー！」とか「お祈り！」とか言って静かにしており、なかなか成長したなぁとわが子ながら感心してしまいました。

今日の聖書のお話の中で「神様から信頼されている」ことを強く感じました。神様はいつも見ていてくださる。求めれば与えてくださる。この絶対的な安心感を子どもたちにも伝え、伸び伸びと育てていってほしいと願います。

大変不謹慎なお話ですが、私たち家族は芦屋に転居して以来、なかなか毎週の御ミサに行かず、なにかイベントがあるときだけという恥ずかしい信者たちです。それでも教会に来るといつもいらっしゃる信者の方々、温かい笑顔で迎えてくださる神父様のお姿を見るとほっとします。

また今回、教会の同級生3人が親として並び感慨深いものがありました。大人になっても教会という一つのコミュニティーでつながっていられることに感謝します。

(大杉)



<行事報告>

∞∞∞ 洗礼を受けて (12月11日) ∞∞∞

先日、皆さんに見守られる中で洗礼式を迎えることができました。それは今までにないくらいに、教会の皆さんの愛を感じる瞬間でした。

私は5年半、教会学校のリーダーという形で教会に関わらせていただきました。教会に来始めた頃の私にとっては、教会や十字架というのはとてもまぶしい存在でした。十字架の前に立つ時、「私は、私が接する人、関わる人を本当に愛しているのだろうか」と自戒し、時には自分の行いを思い出して目をそむけてしまいたくなることもありました。

今でも、やはり教会や十字架はわたしにとってまぶしい存在です。ですが、今は「自分のできうる限り人を愛していきたい、目の前の人を愛する事を、やめる事はできない。」という思いで十字架に向き合っています。

洗礼式で教会の皆さんがたくさん愛をくださった様に、私も心から人を愛していけるよう、これからも十字架と向き合って生きていきます。

今までは未信者として教会と関わってきましたが、これからは新しい私として教会の一員に加わりまします。はじめまして。おっちょこちょいなやつですが、これからよろしくお願ひします。

(卯野)

<行事報告>



∞∞∞ 「第53回 神戸市民クリスマス」 ∞∞∞

★日時:2011年12月16日(金) ★メイン会場:日本キリスト教団 神戸教会

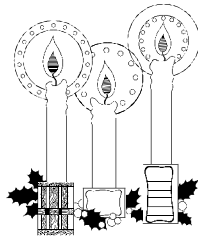
当日は寒い夜でしたが、「心をむすぶクリスマス」をテーマに東日本の被災地のために祈りました。

<参加者数>

・キャロリング: 元町コース 95名、北野コース 65名



- ・子どもプログラム： 40 名
- ・礼拝(日本キリスト教団 神戸教会にて)： 400 名
- ・青年のつどい： 60 名
- ・街角コンサート 観客 200 名、出演者 74 名



<行事報告>

### ∞∞∞池長大司教の教会訪問（12月18日）∞∞∞

12月18日（日）の朝、池長大司教が私達の教会に来られた。訪問の目的は、六甲教会の信徒と話し合いの場を持ちたいということだった。10時のミサを司式された後、そのまま大聖堂に残られ、まず当教会の評議員の活動報告を聞かれた。最初に社会活動部の藤井コーディネーターは、「東日本大震災関連」の取り組みとして被災地への物資支援や「福島支援」の為に現地の野菜や果物の販売について報告し、その後日頃行っている各種ボランティア活動について説明を行った。次に古泉コーディネーターからは、宣教部で取り組んでいる「祈りの実践」について報告。教会学校の吉村コーディネーターは、年間を通じて取り組んでいる各種イベントを分かり易く説明し、最後に地区会コーディネーター橋岡さんからは「地区会の現状の取り組み状況」についての報告がなされた。4人のコーディネーターの報告を受けて、大司教は「六甲は大阪教区の中でも一番信徒数が多く、指導的な役割を果たす教会です。信徒の皆様一人一人がそのことを自覚し、活気ある教会であって欲しい。」と述べられた。そして、3つの祈りー①「観想的な祈り（神に心に向け、あなたにお目にかかりたいという気持ちになる）」、②「黙想の祈り（聖書の情景を読む）」、③「念頭の祈り（文章に書いて祈る）」について話された。

40分余りの話し合いの後、イグナチオホールで行われる教会学校の「みんなで分かち合うクリスマス会」にも顔を出され、子供たちの歌や三日月会のコーラス、地区会有志のパフォーマンスをしばらく楽しまれた後、参加者に祝福を与えられた。

ミサの司式をされる池長大司教



信徒との話し合い



<行事報告>

∞∞∞ 教会学校「みんなで分かち合うクリスマス会」(12月18日) ∞∞∞



大司教の話を熱心に聴く子供たち



子供達の歌や余興を楽しまれる大司教

<<参加された方々の感想>>

- ★「終始和やかな雰囲気、素敵な催しでしたね」(池長大司教)
- ★「子供たちの真っすぐな声と言葉が心に響きました。受け取った思いを東北に贈る段幕に書き込みました」
- ★「昨年からはまった会ですが、リーダーたちの準備によって素晴らしい会になったと思います。良かったです！ありがとうございます！」
- ★「子供たちの祈りによって、有意義な集いでした。感動した！我々だけがはしゃぎ過ぎていたようだ。」  
(三日月会メンバー)
- ★「子供たちの歌を聞いて、阪神大震災の時のことを思い出していました。一緒に祈れてよかった。」



《 各部だより 》 各専門部会の活動をお知らせいたします

 **三日月会**


1月16日(月)ミサと例会

 **壮年会**

1月15日(日) 新年会

 **婦人会**

1月13日(金) ミサと新年会

 **教会学校**

1月14日(土) 始業式・もちつき大会

 **宣教部**

1月28日(土) 10:00 部会

 **典礼部**

1月21日(土) 10:00 部会

1月29日(日) 午後 聖体授与の臨時の奉仕者の集い

 **社会活動部**

2月3日(金) 初金ミサ後 連絡会

 **広報部**

1月28日(土) 教会報2月号発行

 **施設管理部**

1月22日(日) 部会



《 お知らせ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

1月 4日(水) 10時 ♪手芸の集い お休みです。

14日(土) 10時 ♪炊き出し(イグナチオお台所)

小野浜グラウンドにて配食やおじさんたちとのお話し相手だけでもOKです。  
(毎月第2土曜日)

15日(日) 10時ミサ後 ♪ふれあい広場(イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品・無農薬野菜等の販売  
福島のりんごもあります!!!

19日(木) 14時 ♪ベタニアの集い(イグナチオホール)

聖体拝領式&茶話会(奇数月第3木曜日)

27日(金) 9時半 ♪ともしび会(お台所) 養護施設の子供たちの為のケーキ作り





神戸 越年越冬炊き出し  
12月28日(水)～1月5日(木)  
東遊園地

カトリックの当番日  
1月1日(日)と5日(木) 10:00～  
大勢の方のご参加をお待ちしています。



祈りの道場

指導:英 隆一朗神父  
日時:2月4日(土)10:00～14:45  
15:00～ミサ  
場所:カトリック六甲教会主聖堂  
参加費:600円(昼食代)

大勢の方のご参加をお待ちしています。  
(養成部)



俳句同好会「二水会」より

教会内の俳句同好会(二水会)の合同句集「驢馬」が出来ました。  
現在の会員を中心に15人の方々の自薦句を15句ずつ収録しています。  
辛子色の表紙 B6版のハンディな冊子です。  
以前に作品展を教会内で行ったことがありますが、句集発行は初めてです。  
残部が少々ありますのでご関心のある方には謹呈致します。  
詳しくは、小松原まで。

★”墓地っ子だより”★

=雑草抜きをしました=

12月20日 社会活動センターの皆さんと雑草抜きをしました。  
今回はC, I 地区を対象としました。墓石有り、販売済だけど墓石無し、未使用地の3種類となりますが  
いずれの墓地にも雑草ボーボーが見えます。”私はここに居ません”を信用しているとは思いませんが、  
放ったらかし墓地がかなり目につきます。雑草が伸び放題、植栽の隣地への妨害が多いです。  
主な理由は下記でしょう。

- 代替わりでお墓を守る人がいなくなった
  - 神戸から遠隔地に移転したために墓地に行けなくなった
  - 管理費を払っているので自分の墓はいつもきれいだと思っている
- お墓の顔は使用者の品格とも言えます。雑草ボーボーでは隣接の墓地にも迷惑をし、  
更にカトリックの墓地としての品格をも損ねているのではないのでしょうか。



共同墓地への移転、墓地清掃委託や墓参代行もある今日この頃、なんなりと墓地委員会にご相談ください。  
今回の雑草抜きで年末年始の墓参が少し快くなるのではと自負しています。

カトリック六甲教会 墓地委員会 SF

## 感 謝

新年おめでとうございます。昨年、皆様のご協力を得てすべての行事ならびに諸問題に対して、つつがなく対応できましたこと、心より感謝しております。

また昨年末には、沢山の方々から教会へご寄附を戴き、ここに改めて御礼申し上げます。何かと入り用の多い昨年でしたが、皆様方のご好意に支えられ諸々の修理を終えることが出来ました。

(教会会計係)



## 信 徒 動 静

### 新成人の皆様そして昨年転入された皆様へ

1月9日(日)10時ミサ後、イグナチオホールで開催される「新成人の祝福と教会新年会」にご参加下さい！

教会の信徒の皆さんと親睦がはかれる絶好の場になると思います。

是非、多くの方が来られることを心よりお待ちしております。(評議会議長団)



## みんなの広場

### 「去年今年貫く棒の如きもの」

三好

年が変わるとこの句がなんとなく頭に浮かぶ。何を「棒」と見たかは知らないが確かに歴史を貫く「棒」はあるようだ。大晦日とか元日だとか言ってもそれは人間が便宜つけた区切りに過ぎない。時はそんな人間にはお構いなく同じように過ぎてゆく。

その中であって教会とは何か、何のためにここにあるのか、複雑多岐になった現代の人間社会の中にある教会の姿も多岐にわたらざるを得ない。主はピラトに「わたしの国はこの世には属していない」と告げられた、我々も一人ひとり洗礼によって古い「わたし」は死に、新しい「わたし」が生まれてこの世には属さない者になった。そうなのに神は「わたし」をわたしが属さないこの世に置かれた。教会を何故属さないこの世に置かれているのか。

最近教会の中で「つながり」と言う言葉を聞くことが多くなった。ここで言う「つながる」とは個体がばらばらに在るのではなく互いに結び繋がれていること、一方通行ではなく双方向に結びついていることではないか。今この教会には上意下達の方通行のルートはあるが逆のルートには何があるのか。ある日突然予期しないことが天下ってくるだけではどうなるのか。互いに思うことを忌憚なく言い合い議論する場は見当たらない。

プロテスタントの猖獗に教会は扉を閉じて立てこもってしまった。その後外界の、人間社会は大きく変わっていったが扉を閉じて中に隠れたままだった。業を煮やした神はとうとうヨハネ 23 世

を叩き起こされた。驚いて外に出てあまりの変化に、ある者はまた扉の中に逃げ込み、ある者は右往左往している、それが今の教会ではないか。第二バチカン公会議の公文書と教会の現実とを並べてみるとそんな思いがする。

書店には「キリスト教とはこんなものだ」という類いの出版物が並んでいる。その内容は著書がキリスト教をどう見ているかを知ることができるが、そこに書かれていることは「キリスト教」そのものではない。にもかかわらずその内容がキリスト教そのものとして流布され事実とされる。こうした実態を是正するために何がなされているか、扉の中に閉じこもっては何もできない。一人ひとりが外に、現在の人間の社会の中に居なければならない。そこは互いに結ばれ繋がっていないければ到底留まれない場なのである。

教会の喫緊の課題は、一方通行ではない双方向の「つながり」をどう実現するかではないか。繋ぐものは何か。



|                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教会報2月号の発行は、1月29日(日)です。<br/>         編集会議1月22日(日)です。<br/>         記事原稿は、1月15日(日)正午までに信徒会館<br/>         受付へご提出願います。(広報部)<br/> <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会<br/>         〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21<br/>         電 話 078-851-2846<br/>         F A X 078-851-9023<br/>         発行責任者 松村信也 神父<br/>         編集 広 報 部</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|